

## ガバナーメッセージ

国際ロータリー第 2640 地区

ガバナー 三軒 久義

ロータリーも新世紀の 2 年目を迎え、ポイド会長の「率先しよう」をテーマに当地区ロータリアンの皆様には「温故知新」の精神で 2006～2007 年度の 1 年間精一杯ロータリー活動に励もうではありませんか。

ロータリー 100 年の歴史に刻まれた奉仕や親睦の膨大さもさることながら、ロータリーに対する考え方も非常に多岐にわたり、勉強すればするほど分からなくなり、迷うことも多くなりますが、結局は今のロータリーの綱領である「the ideal of service」(奉仕の理想)を奨励し、育成することが、我々ロータリアンの務めだと思います。それでは「奉仕の理想」とは何でしょうか。「理想的な奉仕」と違うのでしょうか、ベテランのロータリアンには当然のこととお判りでしょうが、私には最近までよく分からなかったのです。先輩に教えて頂いて、私なりに理解したことは、「奉仕の理想」とは「ロータリー用語」であって「他人への思いやりと援助」(thoughtfulness of and helpfulness to others)であるということです。しかしポイド R I 会長も強調されているように、ロータリーは多様性が特徴です。組織としての多様性は強みですし、各ロータリアン、各クラブの多様性は認め合わねばなりません。みんなが自分のやり方、考え方に固執しないで、他のロータリアン、他のクラブ、他の地区、他の国の考え方、あり方の多様性を認めることが「寛容の精神」で、これがロータリーにとって必要不可欠なものと思われまます。そしてクラブが何かをするときには、民主的に方向性を決めて行うわけですが、民主的と言うと皆の意見を取り入れないといけないと思っている人(日本のマスコミに多い)がいますが、それでは何も出来ないもので、多くの意見を集約し 1 つにするのに民主的なルール即ち多数決で決めるというのが、民主主義ですから、親愛なる同僚のロータリアンの皆さんはそのためにリーダーシップを発揮され、そして協力して頂かなくてはなりません。

さて当地区では今年度はクラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)の準備期間と考えています。試験的に実施されるクラブには十分な援助をするつもりですし、次年度から採用するクラブには情報提供とお手伝いを、「地区 CLP 準備委員会」を通じて行う予定です。ところで「CLP」は日本になじまないところも多いのですが、国際ロータリーから見れば、クラブの一つの強化策と受け取り、ロータリーの多様化の一種と考え、各クラブの自主性で前向きに取り組んで下されば幸いです。

どうか、ロータリー精神を持つ職業人を一人でも多くするために増強を、そしてロータリーらしい社会奉仕が一つでも多く行われますことをお願い申し上げます。